

(電子メール施行)

農技第 1 3 8 6 号

令和 4 年 7 月 8 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和 4 年度 病虫害発生予察防除情報第 3 号を發表します。

6 月中旬以降、果樹カメムシ類の予察灯およびフェロモントラップにおける誘殺数が平年値を大幅に上回っています。果樹園での発生状況に十分注意し、適切な防除対策のご指導を願います。

令和 4 年度 病虫害発生予察防除情報第 3 号
果樹カメムシ類の防除対策について

- 1 対象作物 果樹類 (特にナシ、モモ)
- 2 病虫害名 果樹カメムシ類
(主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)
- 3 発生地域 県下全域

4 発生状況と今後の予想

- (1) 果樹カメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は表年 (発生が多い年) に該当する。6 月中旬以降、予察灯とフェロモントラップにおいて、例年にない時期での多誘殺を認めている。
- (2) チャバネアオカメムシの予察灯における 6 月 1 半旬～5 半旬の合計誘殺数は、加西市で 33 頭 (表年の過去 6 年分平均値 6.3 頭)、朝来市で 98 頭 (同平均値 12.2 頭)、南あわじ市で 8 頭 (同平均値 2.7 頭) と、表年としても多い状況にある (図 1)。フェロモントラップにおいても同様に 6 月中旬以降、例年にない時期における多誘殺を認めている (データ略)。
- (3) ツヤアオカメムシの予察灯における 6 月 1 半旬～5 半旬の合計誘殺数は、加西市で 8 頭 (表年の過去 6 年分平均値 0.8 頭)、朝来市で 6 頭 (同平均値 2.8 頭) と、チャバネアオカメムシ同様、表年としても多い状況にある (図 2)。
- (4) 大阪管区气象台の近畿地方の 1 ヶ月予報 (6 月 30 日発表) によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく推移するとされており、果樹カメムシ類の活動に好適な条件が続くと予想される。

5 防除上の留意点

(1) 果樹園への飛来時期や飛来量は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なる。本年は例年に比べて早い6月中旬から活動が盛んになっており、加害期間が長期化する可能性がある。

各園地で見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに薬剤による防除を行う。山林に近い園地では飛来量が多い傾向にあるため、特に注意する。

(2) ナシやモモでは、袋をかけていても、袋と果実が接している部分は外部から吸汁を受けやすい。多発時には思いがけず被害果が増えるおそれがあるため、袋がけ後であっても発生状況に注意する。

(3) 果樹カメムシ類は夜間を中心に活動するため、薬剤散布は夕方に行うと効果が高い。また、移動性が高いため、薬剤散布は広域的に一斉に実施し、地域全体の密度を下げることを望ましい。

(4) 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

なお、合成ピレスロイド剤は効果が高く残効も期待できるが、天敵昆虫に対する影響が強く、ハダニ類など他の害虫の増殖を誘発するおそれがあるため、使用にあたっては他の害虫の発生状況も十分に考慮する。

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>



写真 果樹カメムシ類の成虫（左：チャバネアオカメムシ、右：ツヤアオカメムシ）

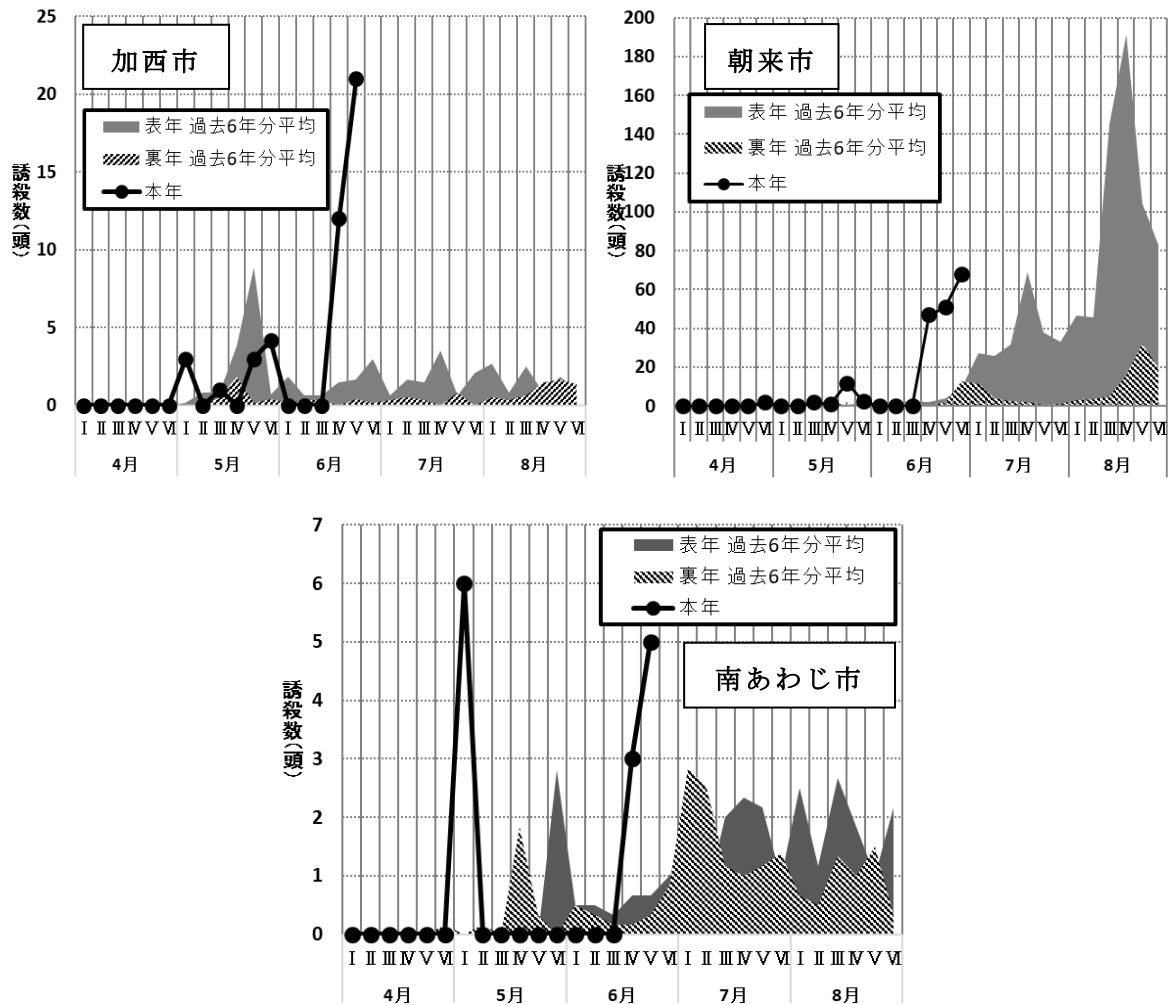


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

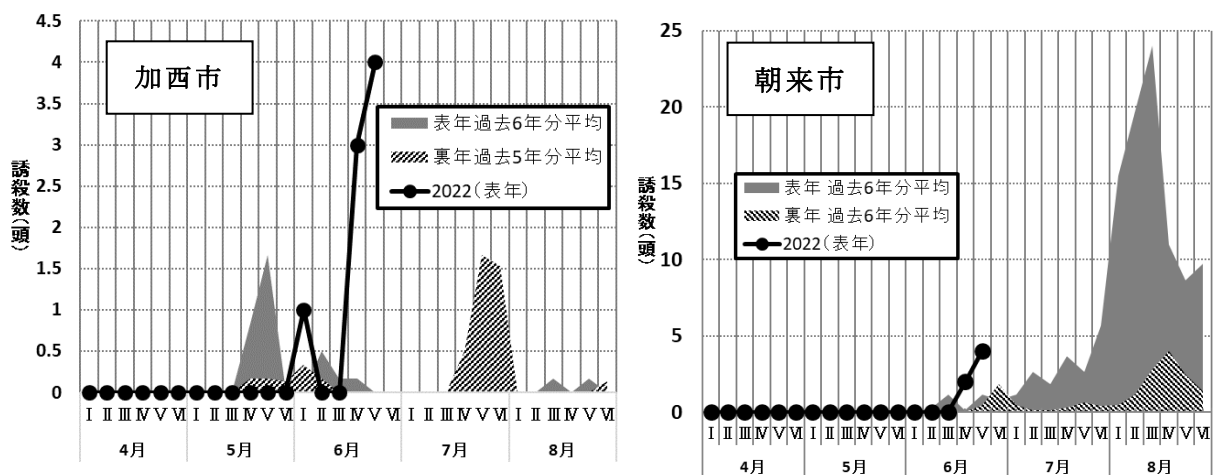


図2 予察灯におけるツヤアオアオカメムシ誘殺数の推移

*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222